

## 育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 日常着の手入れが必要であることや、ボタンの付け方を理解しているとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- (思、判、表等) 日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (学びに向かう力等) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、衣服の着用と手入れについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

## ICT活用のポイント

ICT端末を活用し、自分のペースで参考動画を見ながらボタン付けの手順を確認することで、「3～4回穴に通す」「2～3mm隙間をける」「3回固く巻く」などの個に応じた課題を解決する。

### 【問いをもつ】

ボタンの役目について話し合い、本時のめあてをつかむ。

### 【解決する】

ボタン付けの手順を知り、手順を確認しながらボタンを付ける。

### 【まとめる】

ボタン付けのポイントについてまとめる。

### 【振り返る】

ボタン付けについて自己評価するとともに次時の予定を知る。

## 事例の概要

〈めあて〉ボタンを正しくつけよう。

○ボタンの役目（布同士をとめる、飾り）を押さえてから、本時のめあてを確認する。

### 【事例におけるICT活用の場面①】

○ICT端末でボタンの付け方動画を児童に送り、動画で手順やポイントについてよく確認しながらボタン付けをするように伝え、自力解決できるようにする。

○ボタンを付ける時に、気をつけるポイントは何だったか、問いかける。

### 【事例におけるICT活用の場面②】

○学習支援ソフトで振り返りカードを送り、本時の学習を振り返り、ポイントに対する自己評価とボタン付けをした感想を書いて、提出する。

# 【家庭科・小5・「ソーイングはじめの一歩」②】

## 【事例におけるICT活用の場面①】



- ICT端末を使って、動画を繰り返し再生したり、一時停止したりしながら、ボタン付けのポイントや手順を子ども一人一人が確認しながら実習に取り組むことで、子どもが自分のペースで自力解決することができる。

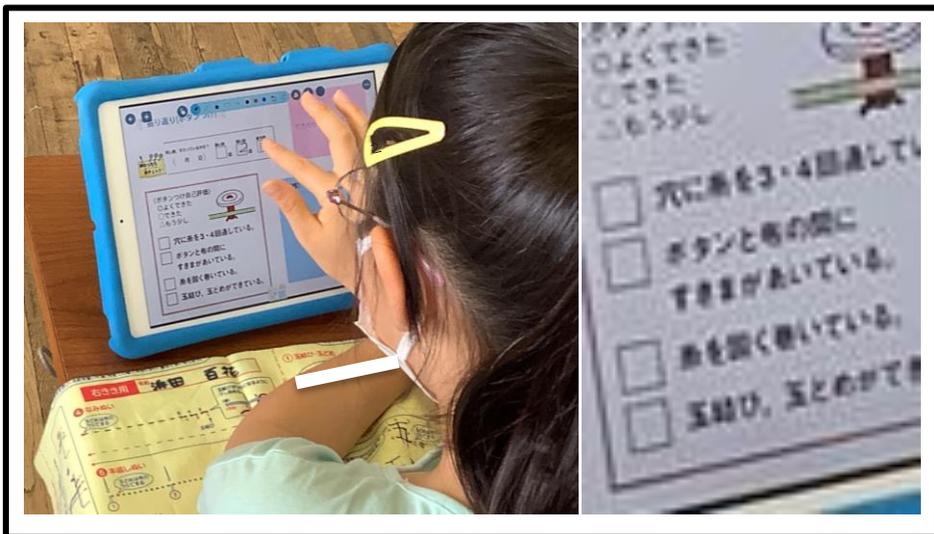
### 【活用したソフトや機能】

- ・学習支援ソフト
- ・動画視聴

分かりにくいところは拡大模型を使って演示したり、子ども同士で教え合うよう促したりする。

子どもが進度に合わせて取り組めるよう、難易度の異なる複数のボタン付けの動画を用意する。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



- 学習支援ソフトを使って、子どもに振り返りカードを送り、それに子ども達が自分の作品の写真を添付したり、書き込んだりすることで、学びの履歴を残すことができる。
- 学習支援ソフトを使って振り返りカードを共有することで、ボタン付けの際の注意するポイントやコツに気付くことができる。

### 【活用したソフトや機能】

- ・写真撮影
- ・学習支援ソフト

振り返りカードに針の本数の確認欄を設けることで、安全確認を子ども自身が意識できるようにする。